

観点 ① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度

指導単元	観点	単元の評価規準（学習評価表）	具体的評価目標（おおむね満足 B）	評価方法・場面	弱点克服
B 生物育成 時間（1～15 4～9月	①	<ul style="list-style-type: none"> <li>適切な生物育成の作業方法を説明することができる。</li> <li>育成する生物の成長、生態の特性等の原理・法則について理解することができる。</li> <li>生物育成技術に込められた問題解決の工夫について考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>間引きや元肥，追肥などの作業を言語化することができる。</li> <li>生物育成に関する基本的な用語や作業を理解することができる。</li> <li>身近な生物育成について調べ、まとめることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシート 点検</li> <li>作品の点検</li> <li>定期試験</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材の工夫</li> <li>授業展開の工夫</li> <li>補習実習</li> <li>個別指導</li> </ul>
	②	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題を見出して課題を設定し、育成環境の調整方法を構想することができる。</li> <li>製作の過程や結果の評価、改善及び修正について考えることができる。</li> <li>技術を評価し、適切な選択をしようと、新たな発想に基づいて、改良と応用について考えることができる。</li> <li>育成計画の立案と修正ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「栽培記録・育成計画」に製作過程をまとめることができる。</li> <li>育てた小松菜を評価し、次の改善案等を考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習中の 取り組み</li> <li>ワークシート の点検</li> <li>定期考査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材の工夫</li> <li>個別指導</li> <li>製作例の提示</li> </ul>
	③	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活や社会、環境との関わりを踏まえて、技術の概念を理解することができる。</li> <li>自らの問題解決とその過程を振り返り、改善・修正しようとしている。</li> <li>よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「振り返りシート」にメタ認知できるように振り返りができている。</li> <li>身の周りの食べ物とのかかわりについて考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習中の 取り組み</li> <li>振り返りシート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材の工夫</li> <li>補習実習</li> <li>個別指導</li> </ul>

指導単元	観点	単元の評価規準（学習評価表）	具体的評価目標（おおむね満足 B）	評価方法・場面	弱点克服
<b>D 情報</b> 双方向性のあるコンテンツプログラミング 時間（15～35分） 9～3月	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 構想したプログラムを説明することができる。</li> <li>・ 情報通信等の原理・法則や情報モラルの必要性について理解することができる。</li> <li>・ 情報技術に込められた問題解決の工夫について考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ UMLの図を用いて、処理の流れを説明することができる。</li> <li>・ 情報通信に関する基本的な言葉を理解することができる。</li> <li>・ 身近な情報通信について調べ、まとめることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ワークシート点検</li> <li>・ 作品の点検</li> <li>・ 定期試験</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教材の工夫</li> <li>・ 授業展開の工夫</li> <li>・ 補習実習</li> <li>・ 個別指導</li> </ul>
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 問題を見出して課題を設定し、育成環境の調整方法を構想することができる。</li> <li>・ 製作の過程や結果の評価、改善及び修正について考えることができる。</li> <li>・ 技術の評価し、適切な選択をしようと、新たな発想に基づいて、改良と応用について考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「プログラム進行表」に制作過程をまとめることができる。</li> <li>・ 制作したプログラムを評価し、次の改善案等を考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習中の取り組み</li> <li>・ ワークシートの点検</li> <li>・ 定期考査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教材の工夫</li> <li>・ 個別指導</li> <li>・ 製作例の提示</li> </ul>
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生活や社会、環境との関わりを踏まえて、技術の概念を理解することができる。</li> <li>・ 自らの問題解決とその過程を振り返り、改善、修正しようとしている。</li> <li>・ よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「振り返りシート」にメタ認知できるように振り返りができている。</li> <li>・ 身の周りの情報通信機器とのかかわりについて考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習中の取り組み</li> <li>・ 振り返りシート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教材の工夫</li> <li>・ 補習実習</li> <li>・ 個別指導</li> </ul>